

登別市史編さんだより

調査報告 石碑の調査

市史編さん事業では、市内の石碑や石仏なども調査しています。
今回は、普段はなかなか気付くことがない2基の石碑を紹介します。

1. ポールンナイの山の神（登別温泉町）

「ポールンナイ。＜poru-un-nay（洞窟・ある・沢）。温泉道路の右手にあり、今は山の神か何かを祭ってあり鳥居が立っている。」（『幌別町のアイヌ語地名』）



割れた「山神」の上半分

左の写真は、登別温泉町で近所にお住いの方からの情報を基に調査をした「山神」の上半分です。

割れた下半分と合わせると「大正十〇年 山神 六月六日」との碑文を確認することができ、そばにはイチイの木が植えられています。

この場所は、『幌別町のアイヌ語地名』（知里真志保・山田秀三共著）の中で「ポールンナイ」と記され、頭書のような説明が書かれています。

知里真志保や山田秀三がアイヌ語地名の調査をした昭和20年代から30年代の頃には立っていた山神も、今回、調査をしたときは鳥居とともに倒れ、2つに割れていました。

この山神を含めて市内では、現在、10基の「山神」が確認されています。

2. 「蛇供養」塚（カルルス町）



「蛇供養」塚

温泉が、現在のように内湯ではなく、外湯であった頃、温泉の温かさにひかれて人だけではなく蛇も集まっていました。

「湯船に入ろうとしたら蛇が先客でいた」などの温泉と蛇に関する逸話は、川又温泉（鉾山町）やカルルス温泉にも残されています。

そして、これらの蛇は駆除されることとなり、カルルス町で駆除された蛇を供養する塚が町内に建立されています。

写真では見えにくいのですが、碑の正面に「蛇供養」、裏面に「昭和二年九月建之」と彫られており、この年の6月にカルルス町で起きた大きな山火事の犠牲となった蛇も併せて供養しているのかもしれない。

動物を供養するための石碑は、現在、馬頭観世音を除き市内に5基が確認されています。

街並み今昔 富士町

今回は、昭和 33（1958）年の富士町（現・道道弁景幌別線沿い）の様子です。

●現在の富士橋（富士町 2 丁目）付近



昭和 33 年 12 月 撮影



平成 31 年 2 月 撮影

この頃、幌別駅前から富士町 4 丁目の交差点付近までは多数の商店が立ち並び、写真に大きく写る曙市場のほか、飲食店、食料品店、お菓子屋、パーマ屋などがありました。

昭和 44（1969）年発行の住宅地図では、この道路沿いだけでも 60 軒を超えるお店を確認することができます。

●富士町 4 丁目付近



昭和 33 年 10 月 撮影



平成 31 年 2 月 撮影

現在の富士町 4 丁目の交差点を越えると、昭和 18（1943）年完成の富士鉄（現・新日鐵住金株）の社宅街になり、道路も車道と人道に分かれていました。ちなみにアメリカ軍が撮影した空中写真を見ると、人道と車道は、ほぼ同じ幅だったようです。

人と車の分離は、社宅街が終わる現在の市民会館の角（富士町 7 丁目信号）の付近まで続き、その先は再び人と車の区別なく一つの道として鉾山町の方へ伸びていきます。

※豆知識 「富士町」の町名は、約 1,450 戸建てられた富士鉄の社宅街に由来します。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりの方はご連絡ください。

（連絡先）登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108